

# 第62回近代五種全日本選手権大会

(令和4年11月18日~19日 会場：静岡県御殿場市)



うちだ みさき  
**内田 美咲**  
3等陸曹

おおにし しょう  
**大西 渚生**  
3等陸曹

令和4年11月18日(金)から19日(土)までの間、第62回近代五種全日本選手権大会が静岡県御殿場市において行われた。自衛隊体育学校からは、第2教育課近代五種班嶋野光2等陸曹以下12名が出場し、男子種目で大西渚生3等陸曹が、女子種目でも内田美咲3等陸曹が初優勝し、男女そろっての優勝に輝いた。  
今大会は、国際基準に基づいて行う国内初の大会となった。1日目に馬術を除く4種目でセミファイナルまで競技し男女ともに上位8名(W杯は16名)が翌日のファイナルに進出し、5種目で争った。

## 内田 レーザーランで 逆転優勝

内田3曹は、初日のセミファイナル4種目を持ち前の総合力で、1位通過した。翌日のファイナルは水泳から始まり、この種目を得意とする内田3曹は、200mを2分11秒95で泳ぎ種目別1位で勢いをつけたが、続く馬術では上手く合わせることができず、36点減点(264点)で種目別7位となり、全体の順位を1つ下げ2位となった。

この時点で、1位はフェンシングを得意とし、全日本優勝経験のある才藤歩夢選手(マイナビ)。次のフェンシングでも才藤選手との差を詰めることができず、才藤選手が829点、内田3曹が801点の2位で最終種目レーザーランを迎えた。レーザーランは、ここまでの3種目(水泳・馬術・フェンシング)の合計点を1点1秒で換算し、上位者からスタートを切り、ランと射撃を交互に行い(ラン600m×5回・射撃10mの的に5発×4回)その後ゴールした順位で勝敗を決定する。このまま逃げ切りたい1位の才藤選手からスタートし、28秒後、2位の内田3曹がスタートし徐々に才藤選手との差を詰め、3回目のラン500m付近で才藤選手を捉え、トップで4回目の射撃を迎えた。射撃でやや遅れをとったが、その後のランで再びトップとなり初優勝を飾った。

試合後、内田3曹は「率直に優勝できて嬉しいし、ほっとしている。これまでの全日本は悔し涙で終わることが多く、今年は優勝して嬉し涙を流すことができてよかった。また、ここまで支えてくれた周囲の方や家族に本当に感謝している。しかし、この優勝は1つの通過点でまだまだ強くなれないといけない。今まで以上に努力して結果に繋げたい。」と語った。



トップを走る才藤選手を捉えた内田3曹

## 大西 悲願の 初優勝

大西3曹はセミファイナルのフェンシングで種目別トップとなり、そのアドバンテージを生かしセミファイナル1位で通過した。翌日のファイナルは、フェンシングのポイントにより1歩リードし、他の2種目(水泳・馬術)を総合的にまとめ最終種目レーザーランをトップで迎えた。2位は同じ近代五種班で今年度W杯やアジア選手権で入賞している佐藤大宗3等海曹。佐藤3曹は馬術種目でトップをとり、大西3曹とのレーザーランの差を3秒まで詰めていた。スタート直後にランを得意とする佐藤3曹が大西3曹に追いつきリードし、射撃で大西3曹が再びトップになり2人のデットヒートで会場を沸かせた。試合が動いたのは3回目の射撃、大西3曹が安定して5発決め、一気に2位の佐藤3曹を引き離れた。勢いに乗った大西3曹はそのままトップを走り、自身初の全日本優勝を飾った。

試合後、「1番の敵は自分だと思っていた。自分に打ち勝てば結果がついてくると信じていた。今年は、ケガからのスタートでモチベーションが上がらず引退を考えた時期もあったが、今は結果が付いてきてほっとしている。また、自分を支えてくれている全ての方に感謝したい。私の最大の目標はパリ五輪で出場権を獲得し活躍したい。」と抱負を語った。

今後の近代五種班は、年明けの「W杯全5戦」にナショナルチームに選出された選手が出場し、オリンピックポイント獲得を目指していく。



接戦で会場を沸かせた佐藤3曹と大西3曹



### 総合成績 (ファイナル進出者)



男子	優勝	3等陸曹	大西 渚生	(宮崎県)
	第3位	3等海曹	佐藤 大宗	(青森県)
	第5位	2等陸曹	嶋野 光	(神奈川県)
	第7位	3等陸曹	藤巻 啓太郎	(石川県)
女子	優勝	3等陸曹	内田 美咲	(埼玉県)
	第4位	3等海曹	梅村 華苗	(兵庫県)
	第6位	3等陸曹	桑名 知可子	(福岡県)
	第8位	3等海曹	田口 そよ風	(岐阜県)
団体	優勝	自衛隊A	嶋野 光	佐藤 大宗
			大西 渚生	



アベック優勝と団体優勝を飾った近代五種班

